



一般社団法人日本解剖学会

2025（令和7）年度
定時社員総会

資料

当日はスライド版料を画面共有とします

日 時：2025（令和7）年 3月18日（火）
16:50～17:50

会 場：幕張メッセ
コンベンションホールB（第一会場）

2025（令和7）年度定時社員総会
議 題

開会の辞

議長選出

I. 議事録署名人の選任

II. 理事長報告

III. 報告事項

1. 会員状況
2. 物故会員
3. 教授就任による新代議員
4. 旅費規定改定について
5. CST推進委員会および法人化設立準備委員会について
6. 美容外科医によるご遺体不適切取り扱い事案について
7. 年会費支払方法の変更について
8. その他

IV. 審議事項

1. 新永年会員の件
2. 申請による新代議員の件
3. 2024（令和6）年度事業および業務監査報告の件
 - ① 学術集会開催状況
 - ② 会議開催状況
 - ③ 学会誌の刊行状況
 - 1) 編集委員会
 - 2) ASI 編集委員会
 - ④ 委員会報告
 - 1) 認定解剖組織技術者資格審査委員会
 - 7) アウトリーチ委員会
 - 2) 解剖体委員会
 - 8) 学術委員会
 - 3) 解剖学用語委員会
 - 9) 医療専門職教育委員会
 - 4) 海外交流委員会
 - 10) 倫理・利益相反委員会
 - 5) 教育委員会
 - 11) ダイバーシティ推進委員会
 - 6) 若手育成委員会
 - 12) 若手研究者の会
 - ⑤ 研究の奨励および業績の奨励
 - ⑥ 内外学術団体との協力ならびに連絡
 - ⑦ 技術者認定
4. 2024（令和6）年度決算および会計監査報告の件
5. 2025（令和7）年度予算および事業計画の件
6. 2026（令和8）年度予算執行の件
7. 第133回（2028（令和10）年度）総会・全国学術集会開催担当校の件
8. 2025・2026（令和7・8年度）役員選任の件
9. その他

V. 第131回（2026（令和8）年度）日本解剖学会総会・全国学術集会準備状況

閉会の辞

開会の辞

議長選出

I. 議事録署名人の選任

II. 理事長報告

III. 報告事項

1. 会員状況：2024（令和6）年12月31日現在

正会員	1,693名	永年会員	183名	団体会員	39名
名誉会員	34名	賛助会員	18名	寄贈会員	24名
※ほか、休会中の会員 9名					

2. 物故会員

氏名	逝去日	会員種別	備考
木村 忠直 <small>きむら ただなお</small>	R 3. 1. 2	永年会員	静岡県立大学
永田 哲士 <small>ながた てつじ</small>	R 6. 1. 27	名誉会員	信州大学・名誉教授
井上 芳郎 <small>いのうえ よしろう</small>	R 6. 5. 11	元理事	北海道大学・名誉教授
諏訪 文彦 <small>すわ ふみひこ</small>	R 6. 5. 15	永年会員	大阪歯科大学・名誉教授
横地 千仞 <small>よこち ちひろ</small>	R 6. 8. 4	名誉会員	神奈川歯科大学・名誉教授
飯野 晃啓 <small>いいの あきひろ</small>	R 6. 10. 12	永年会員	鳥取大学・名誉教授
和氣健二郎 <small>わ け けんじろう</small>	R 6. 10. 21	永年会員	東京医科歯科大学・名誉教授
井端 泰彦 <small>いばた やすひこ</small>	R 7. 1. 19	名誉会員	京都府立医科大学・名誉教授

3. 教授就任による新代議員

氏名	教授就任日	所属
野村 隆士 <small>のむら りゅうじ</small>	R 6. 4. 1	藤田医大・基盤医学・解剖生理学
水嶋崇一郎 <small>みずしま そういちろう</small>	R 6. 4. 1	聖マリアンナ医大・解剖学
西井 清雅 <small>にしい きよまさ</small>	R 6. 4. 1	防衛医大・解剖学

4. 旅費規定改定について

現行規約は「宿泊費上限は1.2万円」となっているが、ここ数年の物価上昇により、会場近隣の宿泊がこの金額内で叶わない可能性がある。また、乗車料金等についても原則、実費支給としているが、「勤務地～最寄り駅/会場最寄り駅～会場」については柔軟に経路選択ができるよう、「会場最寄り駅⇔会場」は実費計算、「勤務地⇔最寄り駅」は市内交通費として一律2,000円加算として、市内交通費部分を包括的運賃で支給する方式へ変更の上、現行の規約を廃し、新たに「旅費規程」を整備する提案がなされた。2024（令和6）年度第6回理事会にて協議の結果、全会一致にて了承された。

一般社団法人日本解剖学会旅費規程

（趣旨）

第1条 本規程は本学会における旅費に関する事項を定める。

（旅費の種類）

第2条 旅費の種類は、鉄道賃（船賃・バス賃も同義とする）、航空賃及び宿泊費とする。

(旅費の支給)

第3条 旅費は以下の会議など本学会会務のため役員などが旅行する場合に適用する。

- (1) 常務理事会、理事会、ならびに各種委員会へ役員および委員などが出席する場合
- (2) 理事長本人およびその同行者、または理事長の命で会員が会務のため出張する場合
- 2 原則として、勤務先より、最も経済的な通常の経路及び方法による路程に応じた旅客運賃等に基づく実費により支給する。交通手段の選択にあたっては、様々な割引運賃等、通常の経費に比較して割安な費用での移動を推奨する。
- 3 勤務先より経路最寄り駅、飛行場等までの経費（往復）が1,000円以上2,000円未満の場合は一律2,000円を、1,000円未満の場合は、一律1,000円を支給する。
- 4 海外を旅行する場合は別途常務理事会の決定によるものとする。

(鉄道賃)

第4条 鉄道賃の額は、次に規定する旅客運賃（以下、運賃とする）、特別急行料金等の優等列車料金並びに座席指定料金による。いずれの場合にもグリーン車等の特別車両利用料金は支給しない。

- (1) 乗車に要する運賃
- (2) 特別急行料金等の優等列車料金を徴する線路による出張の場合には、前号に規定する運賃のほか、その乗車に要する特別急行料金等の優等列車料金
- (3) 座席指定料金を徴する列車を運行する線路による出張をする場合には、前2号に規定する運賃のほか、座席指定料金
- (4) 必要と認められる場合、新幹線の利用が出来る
- (5) 目的地最寄り駅より目的地までの往復旅費として、実費を支給する。

(航空賃)

第5条 航空賃の額は、旅行区間が片道500キロを超える場合を原則とする。旅行区間が片道500キロ以内の場合であって割引運賃等により鉄道運賃を超えない場合、用務の都合、または混雑などの特別な事情がある場合にも航空機の利用を可能とする。いずれの場合にも領収書の提出とともに実費精算する。なお、目的地最寄りの飛行場より直接目的地に向かう場合、飛行場から目的地までの往復旅費については第4条5号に準じて実費を支給する。

(宿泊費)

第6条 業務上宿泊が必要と認められる場合に宿泊費を支給する。宿泊費には、室料、税、サービス料を含むものとし、1泊につき20,000円を上限とする。領収書の提出とともに実費精算する。

(連続出張の取扱)

第7条 本学会に関する連続した複数の会務の場合、会議・用務の違いに関らず、一連の出張として取扱う。

(第三者から支給の取扱)

第8条 本学会の用務にも関わらず本学会以外の第三者から旅費が支給される場合には、本学会からの旅費は支給しない。

- 2 本学会以外の第三者からの旅費支給がある会議・用務などと連続して、本学会の用務による出張がある場合には、出張を連続するために必要な旅費・宿泊費のみ支給する。この場合には、前もって事務局に連絡するか、支給されるべきでない旅費などを事後可及的速やかに事務局へ返却する。この場合であっても、この連続が一般社会通念から著しく逸脱する場合には、本来の勤務地からの出張と連続した場合との旅費等を比較し、その支給額が少ない行程を想定し、支給する。

(支給方法)

第9条 旅費は事務局が計算し、会議費などで支給する。

(規程の改廃)

第10条 本規程の改廃は、理事会の議を経て行う。

(雑則)

第11条 本規程に定める事項のほか、必要な事項は理事長が別に定める。

付 則

- 1 本規程は、令和6年7月17日から施行する。

5. CST推進委員会および法人化設立準備委員会について

日本外科学会CST推進委員会は2年任期で運営されており、西暦偶数年の日本外科学会定時社員総会終結時点で任期交代となる。2024年度に委員交代を迎え、日本外科学会より委員選出依頼がなされた。日本解剖学会としては従来同様、学会代表4名を固定化し、日本解剖学会の役員任期に合わせてメンバーを選出する方針とした。

学会代表の委員4名は下記の通り。次期執行部発足後、後任委員4名を検討する。

八木沼洋行（監事、2019-2020年度理事長：福島医大）

大和田祐二（常務理事：東北大・医）

尾崎 紀之（常務理事：金沢大・医）

徳田 信子（理事：獨協医大）


6. 美容外科医によるご遺体不適切取り扱い事案について

2024年12月下旬、一部の美容外科医師がご遺体の解剖に関して不適切な行動を取ったとの報道がなされた。日本解剖学会としては「人体および人体標本を用いた医学・歯学の教育と研究における倫理的問題に関する提言」を平成25年8月1日に発出しているが、改めて周知するべく、2024年12月27日に学会ウェブサイトへ「日本におけるご遺体を用いた解剖学の教育・研究について」を掲載の上、会員各位にOHASYSを通じて配信した。

■日本におけるご遺体を用いた解剖学の教育・研究について

日本における解剖学の教育・研究は、死体解剖保存法をはじめとする各種法規および倫理基準等に基づき、厳格に実施されています。人体を用いた教育・研究にあたっては、ご遺体に対して最大限の敬意を払い、実習中の学習者による撮影や投稿などは固く禁止されています（*）。

日本解剖学会は、ご遺体に込められた崇高な志を尊重し、引き続き皆様に信頼される解剖学の教育・研究を推進して参ります。

 *「[人体および人体標本を用いた医学・歯学の教育と研究における倫理的問題に関する提言](#)」
[（平成25年8月1日発出）](#)

7. 年会費支払方法の変更について

口腔保健協会より年4回郵便振替にて請求しているが、2025年度に予定されている口腔保健協会会員システム「OHASYS」の改修終了後、クレジットカード決済とコンビニ決済方式を導入予定である（2025年度夏頃予定）。

これにより、年会費支払方法は以下の通りとなる。

従来方式	請求時期	備考
郵便振替	2月、6月、10月、12月	2025年6月より新方式移行予定
銀行引落	毎年10月27日	希望者のみ。要申込

新方式	請求時期	請求時期
New! クレジットカード	年2回程度予定 (初回請求 2025年6月頃)	予めOHASYSへ要登録
New! コンビニ支払い	年2回程度予定 (初回請求 2025年10月頃)	クレジットカード決済が出来なかった 会員のみ適用
郵便振替	都度	希望者のみ
銀行引落	毎年10月27日	変更なし

【審議事項】

1. 新永年会員の件

氏名	所属（職名は申請時点）	備考
池田 一雄	大阪公大・医・機能細胞形態学（教授）	永年会員推薦規約（1）
磯川桂太郎	日本大・歯・解剖2（教授）	永年会員推薦規約（1）
影山 幾男	日本歯大・新潟生命歯・解剖1（教授）	永年会員推薦規約（1）
佐藤 真	大阪大・医・解剖学（神経機能形態学）（教授）	永年会員推薦規約（1）
千田 隆夫	岐阜大・医・解剖学（教授）	永年会員推薦規約（1）
内匠 透	神戸大・医・細胞生物学・生理学（教授）	永年会員推薦規約（1）
田中 雅樹	京都医大・解剖学・生体構造科学（教授）	永年会員推薦規約（1）
野田 泰子	自治医大・医・解剖学（教授）	永年会員推薦規約（1）
福田 孝一	熊本大・形態構築学（教授）	永年会員推薦規約（1）
八木沼洋行	福島医大・神経解剖・発生学（教授）	永年会員推薦規約（1）
渡部 剛	旭川医大・解剖学・顕微解剖学（教授）	永年会員推薦規約（1）
渡辺 雅彦	北海道大・医・解剖学・解剖発生学（教授）	永年会員推薦規約（1）
和中 明生	滋慶医療科学大・医療管理学（教授）	永年会員推薦規約（1）

（五十音順）

一般社団法人日本解剖学会名誉会員・永年会員推薦規程

第4条 理事長は理事会の推薦に基づき、社員総会の議を経て、以下の者に永年会員の称号を贈ることができる。

- (1) 代議員として10年以上の経歴を有し、終身会費を納入した65歳以上の正会員。
- (2) 前項の規定に関わらず、本学会の発展のために永年の功労があったと認められる正会員。

2. 申請による新代議員の件

氏名	所属等（申請時）	入会年	推薦代議員
猪口 徳一	福井医療大・保健医療学（教授）	2008	佐藤 真
井出 吉昭	日本歯大・解剖1（准教授）	2001	春原 正隆
小森 忠祐	和歌山医大・解剖2（准教授）	2005	森川 吉博
佐藤 匡	北海道大・歯・口腔機能解剖学（准教授）	2013	高橋 茂
鈴木 辰吾	香川大・医・神経機能形態学（准教授）	2014	三木 崇範
中野 知之	山形大・医・解剖2（准教授）	2001	後藤 薫
万谷 洋平	神戸大・農・組織生理学・教育研究（准教授）	2012	星 信彦
三井 薫	鹿児島大・医・遺伝子治療・再生医学（准教授）	2013	小賤健一郎
椋田 崇生	鳥取大・医・解剖学（准教授）	2003	海藤 俊行
割田 克彦	鳥取大・農・共同獣医・獣医解剖学（教授）	2008	海藤 俊行

（五十音順）

一般社団法人日本解剖学会代議員選出規程申し合わせ

当分の間、被選挙権者については下記のとおりとする。

- (1) 医学または歯学の大学等の解剖学教育・研究担当専任教授である正会員とする。但し、代議員が解剖学以外の教育・研究職等に転じた場合でも、代議員の資格が継続され、被選挙権も有するものとする。
- (2) 正会員として通算10年以上の経歴を有し、解剖学の教育・研究について、前号の者と同等以上の寄与をなしていると社員総会にて承認された者。
- (3) 65歳を超えて医学または歯学の大学等の解剖学教育・研究担当専任教授である場合は被選挙権を有する。
- (4) 欠員が生じている場合に限り、(1)の申請を行った正会員は常務理事会の決議を経て、社員総会へ報告、(2)の申請を行った正会員については理事会での決議を経て、社員総会に諮るものとする。

3. 2024（令和6）年度事業および業務監査報告の件

①学術集会開催状況

全国学術集会	会 頭	開催期日	会 場
第129回全国学術集会	高山千利(琉球大・医・分子解剖学)	3月21日～23日	那覇市民劇場なは一と、ホテルコレクティブ

支部学術集会	大会長	開催期日	会 場
第70回東北・北海道支部連合	八月朔日泰和 (秋田大・医・細胞生物学)	9月7日～8日	秋田大学
第112回関東支部	平井宗一(日本大・医・機能形態学・生体構造医学)	12月1日	日本大学医学部
第84回中部支部	植木孝俊(名古屋市大・医・解剖1)	10月5日～6日	名古屋市立大学
第100回近畿支部	島田昌一(大阪大・医・解剖学・神経細胞生物学)	11月16日	大阪大学銀杏会館
第78回中国・四国支部	日下部 健(山口大・共同獣医学・獣医解剖学)	10月19日～20日	山口大学吉田キャンパス
第80回九州支部	菱川善隆(宮崎大・医・解剖学・組織細胞化学)	11月16日	宮崎市民プラザ

②会議開催状況

会議名	開催期日	会 場	会議名	開催期日	会 場
常務理事会			理事会		
第1回	2月3日	口腔保健協会	第1回	3月20日	沖縄県市町村自治会館
第2回	3月20日	沖縄県市町村自治会館	第2回	7月10-17日	E-mail 持ち回り
第3回	6月29日	口腔保健協会	第3回	12月21日	A P 新橋
第4回	9月21日	口腔保健協会			
第5回	12月21日	A P 新橋			
定時社員総会	3月22日	那覇市民劇場なは一と			

③学会誌の刊行状況

2024（令和6）年度編集委員会活動報告書

編集委員会
委員長 福田孝一

1. Anatomical Science International (ASI)編集・発刊報告

別記の如く予定通り刊行された（竹田 扇 委員長）

2. 解剖学雑誌 編集・発刊報告

1) 予定通り以下のごとく刊行された。

a)掲載論文数内訳

巻号	特集	寄書	新任教授紹介	追悼文	奨励賞受賞者紹介	その他	計
99巻1号	10	0	2	8	4	0	24
99巻2号	14	0	1	1	3	0	19

b)頁数総計

巻号	特集	寄書	新任教授紹介	追悼文	奨励賞受賞者紹介	その他	計
99巻1号	34	0	2	8	4	0	48
99巻2号	52	0	1	1	3	0	57

※支部学術集会抄録の掲載は学会ホームページに移行済み。

※その他：巻頭言

2) 各号の企画についてメール会議・オンライン会議を中心に議論を行った。

3. 学会ホームページ一般向けコンテンツ「解剖学ひろば」対応について

2024年度奨励賞受賞者紹介は解剖学雑誌掲載後、受賞者あて掲載打診を行う予定である。

以上

2024年度第1回編集委員会 議事録

日時 3月23日 12:10-13:10

場所 なは一と練習室1

出席者 伊藤哲史、本多祥子、八木秀司、福田孝一

欠席者 樋田一徳、福島菜奈恵、和栗聡

議題

1 第99巻2号の内容

(1) 特集の内容

以下の内容が決まり、候補となる著者へ依頼することとした。

- ・研究枠 シンポジウムSC1「葉を見て森も見る～局所と全体の統合で得られる脳構造の新たな理解」から依頼する
- ・教育枠 若手の会アンケート調査結果（若手の会の江角先生と若手支援担当の仲嶋一範先生の共著 or 2篇として）
- ・学会全般枠 篤志解剖の実状に関して（SB1「ご遺体を用いる解剖学教育についての諸課題の現状報告」の講演者から、技術者代表として櫻井秀雄様（獨協医大）、篤志解剖全国連合会江富聡様（熊本白菊会）、連合会会長八木沼先生

(2) 私はなぜ解剖学を選んだか

（東大の廣川先生から昨年11月にご快諾をいただいています）

(3) 若手研究者の会

懇話会だより 毎号2ページ掲載は既定方針

(4) 解剖学者の肖像

i)今後の予定について（以下、樋田先生より）

2025年春号

- ・石川春律先生（九大→東大→群馬大）：ご執筆・依藤宏先生（群馬大学名誉教授・群馬医療福祉大学教授）
- ・浦良治先生（東大→岡山大→東北大）：ご執筆・佐藤洋一先生（岩手医科大学）または百々幸雄先生（東北大学名誉教授）

ii)座談会

樋田委員からの提案

これまで、以下の解剖学者の肖像を掲載、あるいは掲載予定です。

三木成夫先生：ご執筆・坂井建雄先生：2022年秋号（掲載済）
小川鼎三先生：ご執筆・小林 靖先生：2022年秋号（掲載済）
藤田尚男先生：ご執筆・石村和敬先生：2023年春号（掲載済）
藤田恒夫先生：ご執筆・牛木辰男先生：2023年春号（掲載済）
金関丈夫先生：ご執筆・中橋孝博先生：2023年秋号（掲載済）
鈴木尚 先生：ご執筆・木村賛 先生：2023年秋号（掲載済）
濱 清 先生：ご執筆・小坂俊夫先生：2024年春号（掲載予定）
萬年甫 先生：ご執筆・佐藤二美先生：2024年春号（掲載予定）
伊藤隆 先生：ご執筆・阿部和厚先生：2024年秋号（予定・ご執筆中）
田中敬一先生：ご執筆・井上貴央先生：2024年秋号（予定・ご執筆中）

これらのご執筆者の計10名にご案内して一同に会して、座談会を開きたいと思います。

10名は多いですが、現実的には6～8名でしょうか。90分～120分、場所は東京、時期は6～9月、掲載は2025年春号となりますか。

ご案内と司会は私が行いまして、編集委員長の福田先生にもご同席をお願いしたいと思います。

当日の内容を文字に起こして、記念号となる第100巻1号に掲載する

以上について承認された。

2 投稿規定見直しについて（頭出し）

古いままで現状にあっていない。今は寄稿なしで、全て依頼原稿からなり、出版社提供のワードのテンプレートに自由に書き込む方法なので、無くしても良い。もしくは、依頼者に送る場合に参照いただく投稿規程の改定が必要。今後原案を出して、メール会議にて審議する。

報告事項

・「解剖学者の肖像」記事の学会ホームページ「解剖学ひろば」への転載について

学会HP「解剖学のひろば」への転載依頼アウトリーチ委員会から）

著作権は解剖学会にあるが、これまでの著者からは既に快諾を得ているので、転載することとした。

・ASIもIF、投稿数が減少中→ASI編集委員会において、解剖学会シンポの著者に執筆依頼を行う案が出された。その場合本誌と内容がかぶってしまうが、解剖学雑誌に掲載した内容の英語翻訳版republishing（要約的なもの）はSpringerとしても正規に認めている（二重投稿にならぬよう条件付き）。著者を選んでもらう形かどうか。

以上

2024年第2回解剖学雑誌編集委員会

2024年10月29日 10時-11時zoom meeting

出席者：伊藤哲史、樋田一徳、本多祥子、八木秀司、和栗聡、福田孝一

欠席者：福島菜奈恵、竹田扇

議題

1. 第100巻の内容について、以下の特集を組むことが決定された。

（1）第100巻発行記念特集1として「日本の解剖学研究の過去・現在・未来」を掲載することとした。下記の各分野で活躍されてきたさまざまな年代（シニア及び現役世代）の方々に、解剖学のあゆみについて、1人1頁で執筆をお願いする。各自の専門分野における本邦の研究の歴史を簡単に振り返っていただき、その中に位置付ける形でご自身の研究を紹介し、最後に将来への展望をお示しいただく（展望は分野全般についてでもよく、ご自身の研究を中心に書かれてもよく、バランスは著者に任せる）。シニアの先生は、歴史についての記載にやや重きを置いていただく。

依頼する執筆者の所属分野

細胞生物学・組織学、神経解剖学、肉眼解剖学・比較解剖学、発生学、内分泌、リンパ・免疫、消化管、生殖器、口腔解剖学、人類学発生学の各分野から、委員の協議により28名の執筆候補者を推薦した。

（2）第100巻発行記念特集2として、本年8月に実施された「解剖学者の肖像」執筆者による座談会の記録を掲載する。すでに原稿化は終了し、座談会出席者によるチェックの段階。

(3) 以前に研究枠として執筆を依頼したが論文発表の前であったため、保留となっている2名の執筆者に、研究枠の特集として原稿を依頼する。

(4) シリーズ「私はなぜ解剖学を選んだか」
肉眼解剖学分野から1名お願いすることとした。

2. 100巻1号の編集体制について

2025年4月から特約ゆうメールが廃止されることに伴い、解剖学雑誌は比較的安価な学術刊行物による発送に切り替えられるが、ASIの同梱ができなくなり、普通郵便では約5倍の郵送料となる。そのため、解剖学雑誌100巻1号の発送を確実に3月中に行い、2025年発行のASI第2号をそれに同梱とする必要がある。中西印刷から提示されたスケジュールは、100巻1号の原稿締め切りを2024年12月末とし、編集委員で分担して校閲を行い、出版社へ速やかに返送、その後著者校正による最終稿を1月末までに完了するという編集体制をとることとした。

連絡事項

(1) 来年度から編集委員の交代があるので、APPW2025の際に開かれる新旧合同委員会における必要な引き継ぎ事項を準備しておく。

(2) ASI編集委員会で、冊子体から電子ジャーナルへの完全移行が決議された。なお移行の時期は現在検討中である。

以上

2024年度ASI編集委員会活動報告書

ASI編集委員会
委員長 竹田 扇

2024年度のASI編集委員会の活動状況について、下記の通りご報告申し上げます。

1. 総括

2024年度も特に大きな動きはなく編集委員会は対面1回を含む計3回が開催された。また本年度も計画通りに99巻1から4号を発行することができたが、年間投稿数は305と前年の265より1.5割ほど増加していたが、自然増加的なものと思われる。総ページ数は500ページである。日本人の投稿数は2020年度、2021年度、2022年度、2023年度、2024年度、がそれぞれ40、32、31、20、21であった。一方で2023年のインパクトファクターは1.2と前年(1.2)と同じであった。特集号は17編の投稿論文とEditorialから構成され、約170ページからなる99(4)として無事刊行された。現在次年度特集号の”Neuroanatomy Across Scales: Methods for Investigating the Structural Basis of Brain Functions from Nano- to Macro-scales”の編集を行っている。約30名の寄稿者が決定しており、神経科学の実験プロトコル集として、またASI最後の冊子体として本年9月の刊行予定である。

2. 出版実績

2024年度の出版：99巻第1号から99巻第4号までの4冊 [4冊]、頁数：500頁 [617頁]、論文数：52 [60]
内訳は下表、[]内は前年値) [2025年の1月15日までの予定はJanuary issue 合計16編、139ページ]

出版した論文数 (カテゴリー毎)								
	Editorial	Commentary	Review article	Original article	Case report	Method paper	Letter to the Editor	計
99-1	0	0	4	10	1	0	0	15
99-2	1	0	2	3	3	0	1	10
99-3	1	0	1	5	2	0	0	9
99-4	1	1	8	8	0	0	0	18

3. 投稿論文数

投稿論文数は増加に転じた。2024年度の総投稿論文数、カテゴリー毎の投稿数、受理数は下表の通りである。

カテゴリー	カテゴリー毎の投稿数、受理数 (2024年1月1日～12月31日)						
	Original Article	Review Article	Case Report	Letter to the Editor	Method Paper	Commentary	計
全投稿数	218	30	50	2	3	2	305
受理	25	6	10	1	0	1	43
査読中、改訂中	31	6	11	0	0	0	48
リジェクト、取下げ	162	18	29	1	3	1	214

4. 過去10年間の被検索ダウンロード数

過去10年間、下表のように推移している。2024年のFull-textダウンロード数は、175,456件であった。Full-textダウンロード数は昨年度比で14%増、2020年度比で149%増と大きく伸びている。

Service	2015 Total	2016 Total	2017 Total	2018 Total	2019 Total	2020 Total	2021 Total	2022 Total	2023 Total	2024 Total
Abstracts	29,733	20,407	11,459	27,466	82,550	109,791	81,589	85,901	101,489	114,423
Full-text Download	21,741	41,865	45,518	44,129	52,171	70,391	92,611	114,946	154,160	175,456

5. Impact Factor

ASIには2007年よりIFが付与された。その後、上昇、下降を経験し発展しているが、近年は停滞気味である。

	2007	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
IF	1.161	0.827	0.861	0.961	1.330	1.566	1.512	1.741	1.693	1.2	1.2

6. 分析

2024年の総投稿数は305編と、2023年の265編から増加しているが、一層の発展のため引き続きの会員への投稿呼びかけ、特集以外の依頼論文等、検討していく必要がある。総採択数は43編で、2023年の32編から34%増だった。一方、99巻の掲載論文数は52報であり（2023年度比17%減）、500ページ（2023年度比19%減）となった。

7. 解剖学会奨励賞関係

2024年度受賞者は2名で自治医大の山崎礼二氏、順天堂大の表原拓也氏で論文タイトルは以下の通りである。100(3)に掲載の予定である。他方2023年度受賞者3名の論文は2編が掲載済み、1編が改訂中である。他に2021年度の受賞者1名が未執筆であり、執行部からの投稿催促が必要と考える。

- ① Reiji Yamazaki: 病態モデルを応用した白質再生阻害機構の解明
- ② Takuya Omotehara: 精巣と精路の進化形態学的解析

8. Advisory Boardの更新 (国内外)

現役研究者に交代する案が委員会で可決されており、2025年度より実施する予定である。

9. 学会発表

2024年度は沖縄で開催された第129回全国学術集会において解剖学用語委員会との共催で「解剖学用語の過去、現在、未来」と題するシンポジウムを実施し、ASI編集委員会からは竹田扇が、解剖学用語委員会からは坂井建雄がそれぞれ発表した。また2025年度に千葉で開催予定の第130回全国学術集会では日本生理学会、日本薬理学会との共催で「日本発の学会誌をどう活性化していくか」を企画し、各学会誌のEICが登壇する。

10. 謝辞

2024年の投稿数は305本、採択数は43本、査読・改訂中48本でした。2023年度は投稿数265本、採択数32本、査読・改訂中が32本でしたので、採択された論文数は増加しました。今年度もASI刊行のためにご尽力を賜りました多くの方々に、深甚なる謝意を申し上げます。最後になりましたが竹田は2021年より4年間EICを務め、本年3月末に退任します。これまでのご支援、ご協力を有難うございました。

以上

④委員会報告

2024（令和6）年度認定解剖組織技術者資格審査委員会活動報告書

認定解剖組織技術者資格審査委員会
委員長 八月朔日 泰和

2024（令和6）年度の活動状況について、下記の通りご報告申し上げます。

1. 認定解剖及び細胞組織技術者試験実施状況

審査の結果、以下の者が合格と認定された。

認定一級細胞組織技術者

藤永 綾子（大阪医科薬科大学総合医学研究センター）

認定二級解剖技術者

井上 貴之（兵庫医科大学解剖学講座神経科学部門）

祇園 勝己（兵庫医科大学解剖学細胞生物部門）

小見山高明（岡山大学総合技術部医学系技術課（歯）人体構成学）

櫻屋 透真（朝日大学歯学部口腔構造機能発育学講座口腔解剖学分野解剖学）

白岡 千夏（大阪医科薬科大学医学部生命科学講座解剖学教室）

藤永 綾子（大阪医科薬科大学総合医学研究センター）

二口 芽美（金沢医科大学アナトミーセンター）

認定二級細胞組織技術者

井上 貴之（兵庫医科大学解剖学講座神経科学部門）

祇園 勝己（兵庫医科大学解剖学細胞生物部門）

小見山高明（岡山大学総合技術部医学系技術課（歯）人体構成学）

白岡 千夏（大阪医科薬科大学医学部生命科学講座解剖学教室）

二口 芽美（金沢医科大学アナトミーセンター）

2. その他

認定二級解剖組織技術者願書において、年間処置数や作製スライドの概数などを具体的に明示するように記載を変更した。

今後も試験問題の公開を前提とした問題作成方針の検討（選択・記述問題のバランスの検討や記述問題の採点基準の作成など）を進めていく予定である。また、技術職員の交流・技術向上を目的とした解剖・組織技術研究会と連携し、認定解剖組織技術者資格が技術職員のキャリアとして認識されるための方策について検討を行う。

以上

2024（令和6）年度解剖体委員会活動報告書

解剖体委員会
委員長 岩崎広英

（1）第129回全国学術集会において、遺体を用いた外科手技研修（cadaver surgical training、以下CST）に関するシンポジウム「CST実施におけるボトルネックの解消法を探るPart6」を開催した。

（2）第130回全国学術集会（APPW2025）において、シンポジウム「サステナブルなCST実現のための多角的アプローチ」を企画した。

これまで本委員会は「CSTにおけるボトルネックの解消法を探る」と題したシンポジウムを6回にわたって実施した。CSTが各大学で定着しつつある一方で、CSTにおける不適切な事例や新法人との関係性、御遺体を用いた機器開発の在り方、行政とのつながりなど、新たに議論すべき課題が表出した。

そこで委員会で検討を重ねた結果、今後長期にわたって継続可能なCST実現のためにどのような取り組みが必要かについて議論することを目的として上記のシンポジウムを企画した。本シンポジウムでは行政、外科、解剖など様々な立場の演者の方々にご講演頂き、多角的な視点から今後のCSTのあり方について議論する。

（3）第130回全国学術集会（APPW2025）において、倫理委員会/利益相反委員会と協働して日本解剖学会、日本生理学会、日本薬理学会の3学会合同シンポジウム「3学会を取り巻く研究倫理のトピック」を企画した。

以上

2024年度解剖学用語委員会活動報告書

解剖学用語委員会
委員長 坂井建雄

解剖学用語は医学用語の根幹をなすものであり、本委員会では日本医学会や一般から日本解剖学会へ用語について質問や要望があった場合に、必要に応じて対応・回答している。また現在の医学（教育、研究、診療）における解剖学用語の役割やあり方について理解を深めるための意見交換を行っている。

1) TA2 (terminologia anatomica) について

現在の『解剖学用語第13版』の語彙は、International Federation of Associations of Anatomists (IFAA) が1998年に刊行したTA (terminologia anatomica) に対応している。2019年にTA2が発表され、2020年にIFAAで承認された。しかしTA2のラテン語表記のあり方について、国際的なコンセンサスがない状況にあることから、TA2に合わせた日本語『解剖学用語』の改訂についても様子を見たい。

2) Anatomical Science International (ASI) の解剖学用語の特集について

ASI編集委員会（竹田扇委員長）に用語委員会が協力をして、ASI特集号Volume 99, Issue 4 September 2024 “Special Issue: Convergence and Divergence of Anatomical Terminology”が発刊された。用語委員会委員が編集と査読に協力をした。

3) 国際疾病分類の第11回改訂版 (ICD-11) の和訳について

2018年に世界保健機関から公表されたICD-11の日本語版作成に当たり、厚生労働省から日本医学会の各分科会に対して用語の和訳を分担するよう依頼があり、解剖学に関係する用語については、用語委員会で和訳を担当していた。今回、各学会から提案により作成された用語のうち、3502語について調整と最終確認の依頼が厚生労働省からあり、そのうち解剖学に関係のある67語について、用語委員会で検討して回答した。

4) 解剖学用語に関する問い合わせへの対応

一般の方たちから解剖学会に寄せられた解剖学用語に関する問い合わせについて、用語委員会で対応した。

本委員会が編集した『解剖学用語 改訂13版』が2007年3月1日に医学書院から発行された。本用語集に採用された新しい解剖学用語は、解剖学の教科書などに広く採用されており、用語の標準化に大きな役割を果たしたといえる。しかし発刊から16年を経て、用語集の販売部数はなお伸びていないのが現状である。

以上

2024 (令和6) 年度海外交流委員会活動報告書

海外交流委員会
委員長 久保田義頭

1) 韓国解剖学会 (KAA) からの会員招聘

2024年度はKAAより日本解剖学会 (JAA) への招聘年であった。第129回全国学術集会以第5回日韓解剖学会国際合同シンポジウムを実施した。

3月21日 (木) 14:40-16:25 (105分) B会場 (なは一と小劇場)

JAA演者

大野 伸彦 先生 (自治医大・解剖学講座組織学) Organella dynamics

横溝 智雅 先生 (東京女子医大・顕微解剖学・形態形成学) hematopoietic stem cell

今崎 剛 先生 (神戸大・医・生体構造解剖学) Cryo EM

KAA演者

In-Beom Kim先生 (Department of Anatomy, College of Medicine, The Catholic University of Korea) Nano-scale Connectomic Analysis of Retinal Ribbon Synapses

Woong Sun先生 (Department of Anatomy, Korea University College of Medicine, Seoul, Korea)

Neural Organoids for drug development

Han-Sung Jung先生 (Division in Anatomy and Developmental Biology, Department of Oral Biology, Taste Research Center, Oral Science Research Center, BK21 FOUR Project, Yonsei University College of Dentistry, Seoul, South Korea.)

Epithelial plasticity enhances regeneration of committed taste receptor cells

2) 韓国解剖学会 (KAA) への会員派遣

2025年度はJAA会員をKAAへ派遣する年にあたるが、現段階における概要は未定である。

3) JAA-KAA交流協定の補遺締結

第129回全国学術集会時にKAAとの交流協定書(2019年締結)の補遺について締結した。この補遺は相互交流にあたっての詳細な費用負担を明確するためである。

以上

2024年度教育委員会活動報告書

日本解剖学会教育委員会

市村浩一郎、飯野 哲、城戸瑞穂、辰巳晃子、寺山隆司

古田貴寛、山崎美和子、八木秀司、吉田成孝(委員長)

(1) 教育に関するアンケート調査の解剖学雑誌への投稿

2023年実施の解剖学教育の現状に関するアンケート調査結果について解剖学雑誌に投稿し、解剖学雑誌99巻第1号に掲載された。

(2) 第129回全国学術集会におけるシンポジウムの実施

第129回全国学術集会(那覇)において、2024年3月21日に「実習の様々なあり方を考える」のタイトルでシンポジウムを開催した。琉球大高山千利先生からは「学生によりそった組織学実習を目指して」のタイトルで、組織学実習への様々な取組の実践の紹介があった。順天堂大小池正人先生からは「基礎医学初学者に対する組織学・神経解剖学教育の実践」のタイトルで基礎医学初学者への配慮、水平的・垂直的統合の取組みなどの実践の紹介があった。兵庫医大の八木先生からは「兵庫医大での臨床解剖実習の取り組み」のタイトルで、4年次学生対象に外科系教員が主体として行っている臨床解剖実習の紹介があった。沖縄大の盛口満先生からは、「学校教育における骨格標本の活用とその発展」のタイトルで、主に中等教育の場で様々な動物の骨格標本づくりの取組から生徒たちの自主的な学びが広がっていく模様が紹介された。

(3) 委員会の開催

・1月10日にZoomにより委員会を開催した。議題は「APPW2025における教育関連の企画シンポジウムの内容に関する教育委員会の意見の取りまとめ」の1議題であった。解剖学会からは医学歯学教育の中での薬理学教育の現状に関するシンポジウムを提案することとした。

・3月22日に那覇文化芸術劇場なは一と楽屋にて委員会を開催した。議題は以下の3議題であった。

(1) 2024年度の活動について

次期学術集会まで例年通りの活動を行うことが議決された。

(2) APPW2025のシンポジウム企画等への対応について

当委員会は解剖学、生理学、薬理学3分野合同の教育関連の企画に注力することとして、他のシンポジウム等の企画は行わないこととした。解剖学会の窓口である山崎委員から進行状況の報告があった。教育企画は2分野(循環器系と神経系)の模擬講義を行うことに決定し、講師として古田貴寛委員(大阪大)が末梢神経系について模擬講義を行うことが報告された。

(3) その他

教育の質の担保が課題となっていること、生理学エジュケーター制度が話題となった。解剖学会でのエジュケーター制度の導入について意見交換を行っていき、最終的には学会に対して提案をして行くことを目標とすることが議決された。

(4) 第130回全国学術集会(APPW2025)での教育プログラムに関する企画

3学会合同での教育プログラムに関する企画について、山崎委員が窓口として対応している。

今後の活動予定

第130回全国学術集会(APPW2025)での教育プログラムに関する企画である3学会合同での教育プログラムを実施することとエジュケーター制度の導入に関する意見交換を行うこと等が当面の活動予定である。

2024（令和6）年度若手育成委員会活動報告書

若手育成委員会
委員長 池上 浩司

(1) 委員会の開催

2024年3月22日に那覇文化芸術劇場なは一と練習室3において、「若手研究者の会」からの参画委員も交えて委員会を開催し以下の議論を行った。

- 1) 2025年以降の企画シンポジウムの方向性について議論を行い、多くの若手研究者がロールモデルとして参考にできる、限られた予算で効率的に研究や実験、研究室運営を行うコツやノウハウに関するセッションやパネルディスカッションなどの提案をとりまとめた。
- 2) 若手研究者の会主催「春の学校」への学生参加者増に向けたアイデアについて議論を行い、①各研究室において「他大学の同年代の友達を作ろう！」などのアピールを積極的に行ってもらい学部生や大学院生が参加しやすい空気を作る、②春の学校での学生限定アワードを設ける、などの提案をとりまとめた。

(2) APPW2025における若手主催シンポジウム企画への関与

プログラム委員会で計画された3学会合同若手主催シンポジウムの企画会議に参加し、他2学会の方針に合わせ、若手研究者が主となってシンポジウムをオーガナイズできるようオブザーバーとしてサポートを行った。

以上

2024（令和6）年度アウトリーチ委員会活動報告書

アウトリーチ委員会
委員長 竹林 浩秀

2024年3月23日（土）にホテルコレクティブ 中宴会場にてアウトリーチ委員会を開催し、以下の点について協議した。

1. 学会ホームページについて

- ・バナー広告について、これまでの申込と審査基準について確認した。
- ・解剖学会雑誌の「解剖学者の肖像」について、これまでの記事をホームページに掲載予定であることが報告された。
- ・学術集会など、英語による情報発信の必要性についての議論を行い、更新の努力を継続することが確認された。
- ・解剖ひろば、および、解剖学者の肖像の執筆者については、複数の候補者が挙がり、担当理事にお伝えした。
- ・ホームページのアクセス解析の結果については、2023年は主要なアクセス指標が過去最大となったとのことであり、継続してホームページの充実を目指すこととなった。

2. 若手の学会員より学会ホームページ改善についての意見が寄せられたので、アウトリーチ委員会に若手委員枠をつくり、若手の意見を反映できるような委員構成についても検討することとなった。

以上

2024（令和6）年度学術委員会活動報告書

学術委員会
委員長 小田 賢幸

1. APPW2025にて、以下の委員会主催シンポジウムを開催する。

顕微鏡学会連携シンポジウム「神経イメージングの最先端」

オーガナイザー：藤山文乃（北海道大学）、萩原明（東京理科大学）

演者：

- 萩原明（東京理科大学）「シナプスモデリングの電子顕微鏡解析」
- 和氣 弘明（名古屋大学）「ホログラフィック顕微鏡による多細胞操作」
- 村山 正宜（理化学研究所）「高速広視野2光子顕微鏡の開発と脳科学への応用」

2. APPW2025にて、3学会学術研究委員会合同企画として以下のセッションを開催する。

「科研費のあり方に関するパネルディスカッション」

オーガナイザー：高橋倫子（北里大学）

パネリスト

- 生科連代表 東原和成（東京大学）
- 生科連副代表 後藤由季子（東京大学）
- 学術システム研究センター主任研究員 木村 宏（東京科学大学）
- 解剖学会 若手育成委員長 池上 浩司（広島大学）
- 薬理学会 前企画教育委員長（若手育成担当） 南 雅文（北海道大学）

3. The 21st Congress of the International Federation of Associations of Anatomists (IFAA) 2024における日韓解剖学会連携シンポジウムのオーガナイズを新潟大学 芝田晋介教授に依頼し、盛会の中に終了した。

2024.9.8 "Application of Neural Organoids for Neurological/Psychiatric Disease Research and for Regenerative Medicine"

座長：芝田晋介（新潟大学）、Woong Sun (Korea University College of Medicine)

演者

- Jinsoo Seo (Daegu Gyeongbuk Institute of Science & Technology)
- 横田睦美（順天堂大学）
- 芝田晋介（新潟大学）
- Woong Sun (Korea University College of Medicine)

以上

2024（令和6）年度 医療専門職教育委員会活動報告書

医療専門職教育委員会
委員長 黒岩 美枝

A. 2024年3月21日（木）那覇文化芸術なは一と2階 練習室1にて委員会を開催した。

(1) APPW2025日本解剖学会・日本生理学会・日本薬理学会合同シンポジウムについて
「看護における解剖・生理・薬理学教育」におけるシンポジウムが行われ、本委員会からは向井加奈恵先生がシンポジストとして参加し、委員長はオーガナイザーとして参加する。

(2) 2025年度の活動について

2026年の日本解剖学会においてシンポジウムを企画。シンポジウムの詳細について検討予定。

タイトル（仮）獣医学部および栄養学からの立場として解剖学教育について

シンポジスト（予定）

1. 岩手大学農学部 横山 拓矢先生（本委員会委員）
2. 中村学園大学・中村学園短期大学栄養科学部 栄養科学科 日野真一郎先生（2026年度から本委員会委員）

(3) 新規委員について

学会の規則において、2期4年で交代になる。次の委員は、2024年度で2期目になる。

金澤寛明先生（トヨタ看護専門学校）、吉田賀弥先生（徳島大・歯）、横山拓矢先生（岩手大・農）、黒岩美枝（横浜薬大）

2025年度委員長候補

渡部功一先生 久留米大学 医学部 解剖学講座

新規の委員（2025年1月現在）

日野真一郎先生 中村学園大学・中村学園短期大学栄養科学部 栄養科学科

本間典子先生 国立看護大学校看護学部生命科学研究室

大滝博和先生 東京薬科大学 薬学部 機能形態学教室

成田啓之先生 岩手医科大学 解剖学講座

荒川高光先生 神戸大学 大学院 保健学研究科 リハビリテーション科学領域

現在1期目、2025年度2期目の委員

渡部功一先生 久留米大学 医学部 解剖学講座

崎山浩司先生 明海大学 歯学部 形態機能成育学講座

山下菊治先生 新潟薬科大学 医療技術学部 臨床検査学科

向井加奈恵先生 金沢大学医薬保健研究域 保健学系 看護科学 臨床実践看護学

B. シンポジウム

第56回日本医学教育学会の連携探索企画（日本解剖学会）の解剖学教育から見た多様性とプロフェッショナルリズムにおいてシンポジストの依頼が本委員会委員長へあった。「薬学教育のプロフェッショナルリズムにおける解剖学教育」について発表を行った。

以上

2024(令和6)年度 倫理・利益相反委員会活動報告書

委員長 千田隆夫

委員 鈴木良地、伊藤正孝、秋田恵一、北田容章
柳井章江、稲井哲一朗

(1) 「ご遺体を用いた人体構造に関する研究および手術手技研修に関する倫理審査等の手続きに関するアンケート」の集計と結果のまとめおよび解剖学雑誌への投稿と日本解剖学会での発表。

・2023年9月1日～10月10日に実施した上記アンケートに対して、医学部82校、歯学部29校の計111校より回答があった。

・アンケートの集計結果の“まとめ”を作成した。

・これを「解剖学雑誌」に投稿した（第99巻第2号、72-79頁、2024年）。

・同時に、日本解剖学会のWebサイトにも掲載した。

https://anatomy.heteml.net/file/guideline/questionnaire_result_2024.pdf

・第130回日本解剖学会（2025APPW）で開催される解剖体委員会主催のシンポジウムで、千田委員長がアンケート結果にもとづいて、「CSTに対する倫理審査申請を巡って -倫理審査に関するアンケートの結果と分析-」を発表する。

(2) このアンケート結果にもとづき、倫理審査の申請に関する解剖学会としてのガイドラインを作る必要があるかどうかについて意見交換した。

・倫理委員会は大学ごとに組織され、申請研究に対する判断基準は大学（倫理委員会）によって差異があることが明らかになった。

・現時点では、大学により対応にばらつきがあるものの、やはり我が国の法律や各種社会規範、さらには広く文化的・宗教的・倫理的背景によって、将来的には一定の普遍的な範囲に集束していくことが必要である。

・今回のアンケートを通じ、今後、ご遺体の管理に第一義的な責任を持つ解剖学教室が拠り所とできるような、倫理審査に関するガイドライン・指針を策定する必要があると感じられた。

以上

2024（令和6）年度ダイバーシティ推進委員会活動報告書

ダイバーシティ推進委員会
委員長 和氣弘明

1、第129回全国学術集会ダイバーシティ推進委員会企画シンポジウムの報告

3月23日視覚の多様性を題に行いました。活発な議論があり、様々な多様性について考察する良い機会になった。

2、第130回全国学術集会ダイバーシティ推進委員会企画シンポジウムについて

(1) APPW2025 合同シンポジウム3学会による打ち合わせの報告

APPW2025（解剖学会、生理学会、薬理学会）における合同シンポジウムの開催

2月28日（水）13時から、3学会の各担当者による話し合いの場を設けた（オンライン開催）。

①開催形式：参加者数が見込めるため、ランチョン形式で開催する。ただしランチョン形式の場合60分枠と短い。70分-80分枠での実施を大会開催者に交渉していただく。

②シンポジウム内容：男女共同参画学協会連絡会を主体として実施された大規模アンケート調査結果をもとに内容を決めることとし、各キャリアにおける女性研究者の水漏れパイプ問題について4名の演者から発表いただくことで各担当者の意見が一致したこと。水漏れパイプ問題は男性にも起きているため、演者の性別は女性に限定せず、また当事者でなくともよいとする。

(2) 第130回全国学術集会ダイバーシティ推進委員会企画シンポジウムスピーカーの選定について

解剖学会からのスピーカーの選定について議論し、解剖学会の服部祐季先生を第一候補に、生理学研究所と名古屋市立大学の竹村夫妻を第2候補に委員会にてメール審議を行うこととなった。

3、その他

女性教員の学内・学外などの委員会負担や女性教員限定公募に関して意見を交わした。

その後

1、APPWにおける合同シンポジウムの開催について

（開催形式）

上記について議論し、開催形式についてランチョン形式の方が参加者数が見込めるため、ランチョン開催の方向で同意した。→時間が少し短いので、60分の枠を70-80分の枠で行うことができないか大会開催者に交渉する。

（内容）

これまでの開催内容について議論したのち、APPWにおける内容について議論を行った。

男女共同参画学協会連絡会を主体に大規模アンケート調査を行っており、その結果を踏まえたシンポジウム内容の開催が望ましいとのことで意見が一致した。

その中で、女性研究者の水漏れ・パイプ問題というのがあり、これを鑑みて各キャリアにおける女性研究者の問題点などについてご発表いただくことで意見が一致した。また冒頭にアンケート結果を踏まえた総括に関して、東京慈恵医大の志牟田先生にお願いすることとした。

生理学会 西谷先生に若手のキャリアの研究者の推挙を杉山先生にキャリア後半における研究者の推挙をお願いすることにした。和気は子育て中のキャリアの研究者の推挙を行う。

以上について議論し、各学会の委員会で承認を得たのちに、講演者の推薦をしていくこととなった。

以上

2024（令和6）年度若手研究者の会 活動報告

若手研究者の会
運営委員 室生 暁、柏木 有太郎、服部 祐季、井原 大

2024年度の活動について：以下を行った

- ・第129回日本解剖学会総会・全国学術集会時に以下を開催
- 若手研究者の会 春の学校
- ティータイム研究者交流会（若手育成委員会・ダイバーシティ推進委員会共催で開催）
- ランチョンセミナー
 - ・人体解剖セミナーや人体解剖実習への参加費旅費支援事業 助成者13名
 - ・教育・研究交流掲示板の運営
 - ・若手研究者の会オンライン交流会の実施
 - ・解剖学雑誌99巻2号に活動報告を掲載

2025年度の活動について：以下を予定している。

- ・解剖学雑誌への活動報告掲載（毎号2ページ）
- ・人体解剖セミナーや人体解剖実習への参加費旅費支援事業（継続）
- ・教育・研究交流掲示板の運営（継続）
- ・APPW2025での企画
 - (1) ランチョンセミナー
 - (2) 若手研究者の会総会

全国学術集会初日のランチョンセミナー後（3月17日）に実施する。

(3) 若手研究者の会 春の学校

APPW2025においては3会合同開催（解剖学会若手研究者の会、生理学会若手の会、薬理学会次世代の会）で行う。以下の概要で実施する。

日時：2025年3月16日（日） 13:00～17:00

会場：幕張メッセ 幕張メッセ 3F 第9会場 302

参加人数75人 懇親会55人（いずれも2/14現在）

以上

⑤研究の奨励及び業績の奨励

2024（令和6）年度日本解剖学会奨励賞受賞者

氏 名	申 請 課 題	該当分野	所 属
おもてほら 表原 たく也	精巣と精路の進化形態学的解析	発生学	順天堂大・医・解剖学・生体構造科学
やまざき 山崎 れいじ 礼二	病態モデルを応用した白質再生障害機構の解明	神経解剖学	自治医大・解剖学・組織学

（五十音順）

2024（令和6）年度日本解剖学会認定技術者功労賞受賞者

氏 名	所 属
たかはし 高橋 せいじ 成治	新潟大・医・神経解剖学
やなぎさわ 柳澤 かずひろ 一裕	藤田医大・基盤医学・解剖生理学

（五十音順）

⑥内外学術団体との協力ならびに連絡

後 援	なし
協 賛	<ul style="list-style-type: none"> ・日本顕微鏡学会第80回学術講演会 ・第34回顕微鏡サマースクール ・レーザ顕微鏡研究会第49回講演会・シンポジウム ・日本顕微鏡学会第81回学術講演会
共 催	・第54回公益社団法人日本口腔インプラント学術大会における共催セッション

（承諾順）

- 1) 生物科学学会連合、日本脳科学関連学会連合、及び、男女共同参画学協会連絡会における活動協力（意見交換、声明発表、機構強化について）
- 2) 基礎医学系学会（生理学会、薬理学会）、日本顕微鏡学会との意見交流、声明発表
- 3) 日本外科学会CST推進委員会における活動協力（委員派遣等）
- 4) 日本医学会、日本医学会連合における活動協力
- 5) KAA (The Korean Association of Anatomists) との学术交流
- 6) APICA (Asian Pacific International Congress of Anatomists)
第14回APICA開催(2027年)に向けての調整と協力
- 7) 欧米解剖学会との交流
アメリカ解剖学会とはAPICAの枠組みの中で行う。Anatomische Gesellschaftとの交流は継続

⑦技術者認定

1級技術者合格者

氏名	所属	種別
藤永 綾子	大阪医薬大・総合医学研究センター	細胞組織

2級技術者合格者

氏名	所属	種別
井上 貴之	兵庫医大・解剖学・神経科学	解剖・細胞組織
祇園 勝己	兵庫医大・解剖学・細胞生物学	解剖・細胞組織
小見山 高明	岡山大・医・人体構成学	解剖・細胞組織
櫻屋 透真	朝日大・歯・口腔解剖学・解剖学	解剖
白岡 千夏	大阪医薬大・生命科学・解剖学	解剖・細胞組織
藤永 綾子	大阪医薬大・総合医学研究センター	解剖
二口 芽美	金沢医大・アナトミーセンター	解剖・細胞組織

(五十音順)

技術者累計	1級 (累計)	2級 (累計)
解剖技術者	0 (76)	7 (251)
細胞組織技術者	1 (9+※1) ※1：旧・組織30、旧特殊組織7	5 (35+※2) ※2：旧・組織171、旧・特殊組織66

正味財産増減計算書

令和 6年 1月 1日から令和 6年12月31日まで

一般社団法人日本解剖学会

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	340	339	1
特定資産運用益	1,058	89	969
名簿作成積立資産受取利息	41	3	38
特別事業積立資産積立利息	1,017	86	931
受取入会金	161,000	140,000	21,000
受取入会金	161,000	140,000	21,000
受取会費	19,175,000	19,738,165	△ 563,165
正会員受取会費	12,718,000	12,883,165	△ 165,165
代議員会員受取会費	3,230,000	3,587,000	△ 357,000
終身会員受取会費	1,320,000	1,440,000	△ 120,000
学生会員受取会費	957,000	823,000	134,000
団体会員受取会費	510,000	525,000	△ 15,000
賛助会員受取会費	440,000	480,000	△ 40,000
事業収益	30,318,801	26,166,122	4,152,679
全国学術集会収益	24,602,965	22,186,712	2,416,253
支部学術集会収益	3,642,016	2,093,000	1,549,016
会誌等頒布収益	1,307,820	1,285,610	22,210
広告掲載料収益	693,000	514,800	178,200
技術者審査・登録料収益	73,000	86,000	△ 13,000
雑収益	101,875	697,779	△ 595,904
受取利息	1,375	150	1,225
その他雑収益	100,500	697,629	△ 597,129
経常収益計	49,758,074	46,742,494	3,015,580
(2) 経常費用			
事業費	47,302,164	42,045,672	5,256,492
全国学術集会	25,125,070	23,186,712	1,938,358
支部学術集会	4,276,614	2,733,086	1,543,528
会誌製作費・編集費	7,295,024	7,052,100	242,924
会誌発送費	1,221,326	1,430,294	△ 208,968
奨励賞・功労賞関係費	130,350	159,945	△ 29,595
技術者認定業務費	105,780	80,460	25,320
学術会議関連シンポジウム費	0	100,000	△ 100,000
委員会運営費	1,177,192	671,745	505,447
日本篤志献体協会	100,000	100,000	0
生物科学学会連合会費	50,000	50,000	0
男女共同参画学協会連合会費	15,000	15,000	0
脳科学関連学会連合会費	60,000	60,000	0
日本医学会連合会費	135,500	134,400	1,100
若手研究者の会運営費	422,141	170,478	251,663
ホームページ運営費	549,900	435,600	114,300
会議費	46,776	480,731	△ 433,955
旅費交通費	457,622	316,684	140,938
印刷費	602,827	756,671	△ 153,844
通信費	990	3,564	△ 2,574
事務委託費	4,194,960	3,798,702	396,258

諸謝金	247,500	247,500	0
若手育成支援	470,000	62,000	408,000
国際交流関係費	617,592	0	617,592
管理費	2,954,768	3,514,592	△ 559,824
ホームページ運営費	61,150	48,400	12,750
会議費	1,249,859	1,350,390	△ 100,531
旅費交通費	0	23,399	△ 23,399
印刷費	66,981	84,075	△ 17,094
通信費	595,130	567,163	27,967
事務委託費	251,200	690,832	△ 439,632
諸謝金	68,083	69,850	△ 1,767
支払報酬	462,000	462,000	0
支払手数料	47,296	42,245	5,051
渉外費	0	22,000	△ 22,000
租税公課	70,000	80,000	△ 10,000
雑費	83,069	74,238	8,831
経常費用計	50,256,932	45,560,264	4,696,668
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 498,858	1,182,230	△ 1,681,088
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 498,858	1,182,230	△ 1,681,088
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 498,858	1,182,230	△ 1,681,088
一般正味財産期首残高	94,777,349	93,595,119	1,182,230
一般正味財産期末残高	94,278,491	94,777,349	△ 498,858
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	94,278,491	94,777,349	△ 498,858

貸借対照表

令和 6年12月31日現在

一般社団法人日本解剖学会

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	46,691,325	47,190,306	△ 498,981
未収金	993	12,000	△ 11,007
貯蔵品	389,659	463,909	△ 74,250
前払費用	1,002,750	1,022,550	△ 19,800
流動資産合計	48,084,727	48,688,765	△ 604,038
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	20,000,000	20,000,000	0
基本財産合計	20,000,000	20,000,000	0
(2) 特定資産			
名簿作成積立資産	695,400	495,359	200,041
特定事業積立資産	26,127,435	26,683,333	△ 555,898
特定資産合計	26,822,835	27,178,692	△ 355,857
固定資産合計	46,822,835	47,178,692	△ 355,857
資産合計	94,907,562	95,867,457	△ 959,895
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	158,571	151,608	6,963
前受金	418,000	876,000	△ 458,000
未払法人税等	52,500	52,500	0
流動負債合計	629,071	1,080,108	△ 451,037
2. 固定負債			
長期前受金	0	10,000	△ 10,000
固定負債合計	0	10,000	△ 10,000
負債合計	629,071	1,090,108	△ 461,037
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産	94,278,491	94,777,349	△ 498,858
(うち基本財産への充当額)	20,000,000	20,000,000	0
(うち特定資産への充当額)	26,822,835	27,178,692	△ 355,857
正味財産合計	94,278,491	94,777,349	△ 498,858
負債及び正味財産合計	94,907,562	95,867,457	△ 959,895

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	20,000,000	340	340	20,000,000
小 計	20,000,000	340	340	20,000,000
特定資産				
名簿作成積立資産	495,359	200,041	0	695,400
特別事業積立資産	26,683,333	1,321,017	1,876,915	26,127,435
小 計	27,178,692	1,521,058	1,876,915	26,822,835
合 計	47,178,692	1,521,398	1,877,255	46,822,835

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
定期預金	20,000,000		(20,000,000)	
小 計	20,000,000		(20,000,000)	
特定資産				
名簿作成積立資産	695,400		(695,400)	
特別事業積立資産	26,127,435		(26,127,435)	
小 計	26,822,835		(26,822,835)	
合 計	46,822,835		(46,822,835)	

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記2. に記載しているため省略する。

財産目録

令和 6年12月31日現在

一般社団法人日本解剖学会

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)	預金 未収金 貯蔵品 前払費用	普通預金	三井住友信託銀行本店営業部No.4616526	46,691,325
			三菱UFJ銀行駒込支店No.1178366	1,532,270
			三菱UFJ銀行駒込支店No.0511130	17,126,517
			ゆうちょ銀行振替口座00160-6-78262	1,973,087
			認定二級技術者登録料2名分	26,059,451
			奨励賞・功労賞メダル	993
				389,659
				1,002,750
				1,000,000
				2,750
流動資産合計			48,084,727	
(固定資産) 基本財産	定期預金	定期預金	三井住友信託銀行本店営業部No.96426950-01	20,000,000
			三菱UFJ銀行駒込支店No.0066656	20,000,000
			三菱UFJ銀行駒込支店No.0100293	695,400
			ゆうちょ銀行振替口座00170-6-73195	26,127,435
				12,912,154
特定資産	名簿作成 積立資産 特定事業 積立資産	普通預金		13,215,281
固定資産合計			46,822,835	
資産合計			94,907,562	
(流動負債)	未払金 前受金 未払法人税等		一般財団法人口腔保健協会	158,571
			その他諸口	133,821
			令和6年度入会金、会費	24,750
			法人都民税均等割	418,000
				52,500
流動負債合計			629,071	
負債合計			629,071	
正味財産			94,278,491	

監査報告書作成中

日
お
該
減
説
行
産
実
上

理
ま
り

独立監査人の監査報告書

2025年2月4日

一般社団法人日本解剖学会
理事会 御中

公認会計士高岸事務所
公認会計士 高岸 圭 ㊞

<財務諸表等監査>

監査意見

私は、一般社団法人日本解剖学会定款第22条に基づき、2024年1月1日から2024年12月31日までの第12事業年度の貸借対照表、損益計算書（公益認定等ガイドラインI-5(1)の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）及び財務諸表に対する注記並びに附属明細書について監査を行った。

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産、損益（正味財産増減）の状況を、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における私の責任は、「財務諸表等の監査における監査人の責任」に記載されている。私は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表等に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表等を作成するに当たり、理事者は、継続事業の前提に基づき財務諸表等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に基づいて継続事業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監事の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

財務諸表等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- 財務諸表等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部

統制を検討する。

- ・ 理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 理事者が継続事業を前提として財務諸表等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続事業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続事業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表等の注記事項が適切でない場合は、財務諸表等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続事業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表等の表示、構成及び内容、並びに財務諸表等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

<財産目録に対する意見>

財産目録に対する監査意見

私は、一般社団法人日本解剖学会定款第22条の規定に基づき、2024年12月31日現在の第12事業年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

私は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して作成されているものと認める。

財産目録に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して作成することにある。

監事の責任は、財産目録作成における理事の職務の執行を監視することにある。

財産目録に対する監査における監査人の責任

監査人の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して作成されているかについて意見を表明することにある。

利害関係

法人と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

5. 2025（令和7）年度予算および事業計画の件

一般社団法人日本解剖学会 2025（令和7）年度事業計画(案)

事業	2025（令和7）年度（2025（令和7）年1月1日～12月31日）
学術集会の開催	本部 1回 第130回全国学術集会 ※日本生理学会、日本薬理学会との合同開催 会期：2025（令和7）年3月17日～19日 会場：幕張メッセ 支部 6回 第71回東北・北海道連合支部学術集会 第113回関東支部学術集会 第85回中部支部学術集会 第101回近畿支部学術集会 第79回中国四国支部学術集会 第81回九州支部学術集会
学術誌等の刊行	英文誌「Anatomical Science International」刊行 年4回 和文誌「解剖学雑誌」刊行 年2回
研究の奨励及び業績の表彰	奨励賞の選考、表彰 認定技術者功労賞の表彰
研究活動	解剖学用語の検討 各種懇談会・研究会の開催
認定技術者の審査	認定一級技術者認定試験 2025（令和7）年9月実施予定 認定二級技術者審査 認定審査は随時実施
各種会合	定時社員総会：3月 常務理事会：年5回（予定） 理事会：年3～5回（予定） 各種委員会：総会・全国学術集会時 その他随時
広報活動	学会ホームページの拡充、ならびにアウトリーチ活動
国際会議関係	A P I C Aへの協力 諸外国の解剖関連学会(AG, KAAなど)との相互交流
その他	他学会（日本生理学会、日本顕微鏡学会）との連携（学術集会開催、学術誌の刊行など）の推進 若手研究者の育成・研究奨励 CST事業の一般社団法人化対応

収支予算書現在作成中

0

0

△ 76,500

0

0

0

728,500

0

720,000

0

0

0

△ 8,500

0

0

0

,938,000

356,000

356,000

0

0

0

356,000

,182,230

,538,230

0

0

0

,538,230

6. 2026（令和8）年度予算執行の件

2026（令和8）年1月～3月（定時社員総会開催まで）の予算執行を理事会にて決定する。

7. 第133回（2028（令和10）年度）総会・全国学術集会開催担当校の件

第133回総会・全国学術集会担当校に京都府立医科大学、会頭に生体機能形態科学部門・解剖学の八代健太先生を推薦したい。

8. 2025・2026（令和7・8年度）役員選任の件

中国・四国支部選出の海藤俊行理事より、一身上の事由により理事就任を辞退された。

定款第23条2項「任期満了前に退任した理事の補欠として、または増員により選任された理事の任期は、前任者または他の在任理事の任期の残存期間と同一とする。」、ならびに役員選出細則第5条「理事及び監事に欠員を生じたときは、次点者を繰り上げ当選とする。ただし、その任期は前任者の残任期間とする。」各規定により、中国・四国支部：池上浩司代議員が繰り上げ当選となった。

一般社団法人日本解剖学会 次期代議員 各位

一般社団法人日本解剖学会 選挙管理委員会

委員長 伊藤 正徳
委員 秋田 惠一
徳田 信子
上 池 容

謹啓

時下益々御清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別の御高配を賜り、厚くお礼申し上げます。さて、11月12日に選挙管理委員会を、一般財団法人口腔保健協会にて開催し、過日行われました日本解剖学会2025・2026（令和7・8）年度役員選出選挙の開票を行いました。以下の開票結果につきましては直ちに理事長に報告書を提出致しました。

以上、御報告申し上げます。

敬具

—記—

投票結果 有権者数 266名、投票総数209通（78.57%）
有効通数 209通、無効通数 0通

【注釈】海藤先生は開票時点で理事候補者として当選していたが、一身上の事由により理事就任を辞退しており、池上先生が繰り上げ当選となった

監事開票結果（敬称略） 有効通数209通、投票総数209通のうち 有効票数352票、無効票数0票
理事開票結果（敬称略） 有効通数209通、投票総数209通のうち 有効票数570票、無効票数1票

<u>監事（定員2名）</u>			<u>中部支部（定員3名）</u>		
★ 理事優先	岡部繁男	19 票	※ 1.	堀 修	10 票
★ 理事優先	大和田祐二	17 票	※ 2.	宮田卓樹	10 票
※ 1.	尾崎紀之	14 票	※ 3.	飯野哲	8 票
※ 2.	秋田惠一	14 票	※ 次点	和氣弘明	8 票
★ 理事優先	天野修	13 票			
次点	藤山文乃	11 票			
<u>理事</u>			<u>近畿支部（定員3名）</u>		
<u>北海道支部（定員1名）</u>			1.	島田昌一	11 票
1.	吉田成孝	6 票	2.	八木秀司	7 票
※ 次点	網塚憲生	3 票	3.	八代健太	6 票
※ 次々点	藤山文乃	3 票	※ 次点	原田彰宏	5 票
<u>東北支部（定員1名）</u>			※ 次々点	宮田信吾	5 票
★ 1.	大和田祐二	11 票	<u>中国・四国支部（定員2名）</u>		
次点	後藤薫	3 票	1.	大内淑代	13 票
			2.	海藤俊行	12 票
<u>関東支部（定員5名）</u>			次点	池上浩司	6 票
1.	仲嶋一範	29 票	<u>九州支部（定員2名）</u>		
2.	寺田純雄	25 票	1.	菱川善隆	13 票
★ 3.	岡部繁男	18 票	2.	高山千利	11 票
★ 4.	天野修	17 票	※ 次点	若山友彦	3 票
5.	徳田信子	16 票	※ 次々点	神野尚三	3 票
※ 次点	阿部伸一	12 票			
※ 次々点	阪上洋行	12 票			

※「役員選出細則」第4条（5）により、得票数が同数の者の中から当選人を決定する場合には、年長の者を優先します

★ 監事につきましては、「まず理事を決定し、次に監事を決定する」と役員選出細則第4条（4）に規定されておりますので、岡部、大和田、天野各先生は理事就任が優先されます。

以上

V. 第131回（2026（令和8）年度）日本解剖学会総会・全国学術集会準備状況

閉会の辞